

1 漢字の部首の指導について (3年)

【板書事項】

部首 覚えやすい

まとめられる

漢字の分け方のもとになる

へん

きへん 林板柱

にんべん 休体作

つくり

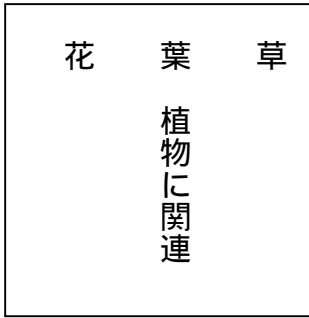
のぶん 数教

おおがい 顔頭

かんむり

たけかんむり 答筆

くさかんむり



【指導の流れ】

- 1 部首について、説明する。
「漢字の多くは、いくつかの部分に分けることができます。分け方の基になる部分を部首といいます。」
- 2 部首という考え方で漢字を分類することのよさを考えさせる。
「みなさんは、今まで多くの漢字を勉強してきました。部首を知ると、どんなよさがあるでしょう。」
C「覚えやすい。」
C「仲間同士まとめて考えられる。」
- 3 代表的な部首を知らせる。
「部首には、へん・つくり・かんむりなどがあります。」
- 4 部首がもつ意味を考えさせる。
「漢字の部首には、共通する意味があることが多いのです。くさかんむりは、どんな意味をもつでしょう。」
C「花」「植物」
C「次」の部首に共通する意味は何でしょう。」
「覚えやすい・こんべん・ふるとり」
「漢字の部首を知っていれば、漢字が覚えやすくなったり、意味を想像しやすくなったりしますね。」

【留意点】

- 1 「部首」という言葉を確実に覚えられるよう、板書し、声に出して確認させる。
- 2 たくさんの漢字を学習してきたことを想起し、漢字を分類・整理して考えることの良さを、実感できるようにする。
- 3 代表的な部首について板書する。部首とそれ以外の部分が分かりやすいように色分けして示す。
- 4 同じ部首同士の漢字をいくつか示し、共通した意味を考えさせるようにする。部首の意味を考えれば、漢字を覚えやすくなったり、知らない漢字の意味を類推しやすくなったりすることを感じさせたい。

1 漢字の部首の指導について (3年)

【板書事項】

同じ部首の漢字集めゲーム

一 個人戦

ルール

- ・たくさん集める。
- ・教科書を見てもよい。
- ・相談はしない。

きへん

くさかんむり

二 団体戦

ルール

- ・一人一文字で交代する。
- ・グループで相談してよい。
- ・集めた数で勝負する。

さんずい

てへん

【指導の流れ】

1 同じ部首の漢字を集めることを知らせる。

「これから、漢字集めゲームをします。」

2 漢字集めゲームのやり方を説明する。

「出題された部首の漢字を集めます。教科書を見てもいいです。できるだけたくさん集めましょう。」

3 個人戦を行う。

「最初は一人ずつ漢字集めをします。思いついた漢字をノートに書きましょう。」

第一問 きへん 第二問 くさかんむり

4 グループごとに漢字集めゲームをさせる。

「次はグループで協力して集めます。一人一字ずつ画用紙に書いていき、一つ書いたら次の人にマジックを渡します。グループ内で教え合ってもいいです。」

第一問 さんずい 第二問 てへん

5 漢字集めゲームの感想を交流させる。

「今日のゲームの感想を発表し合いましょう。」

【留意点】

1 ゲームに慣れてきたら、授業の開始時など、短時間でも行うことができる。

レクリエーションとして、児童が進行してもよい。

2 決められた時間内に、同じ部首の漢字をたくさん集めるというゲームの方法を全員が理解できるようにする。

3 とまどっている児童には、教科書を見ながら一緒に探すなど、個別に支援する。

4 実態に応じてルールを工夫すると、より興味・関心を広げて取り組ませることができるといえる。

例 ・声を出してはいけない。

・三十秒以内に交代する。

・分からないときはパスできる。

・パスは一グループ二回までとする。

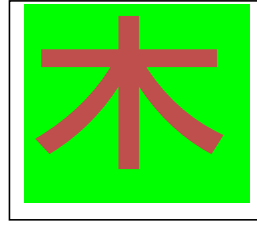
・ボーナス漢字をつくる。

5 ゲームの感想を発表し合い、満足感を高める。

1 漢字の部首の指導について (3年)

【板書事項】

表(イラスト・色を工夫する)



裏(部首名・漢字の例)

き	松
・	村
き	橋
へん	柱
	林
株	桜
校	案
末	巢
	根
枝	楽

部首カードの使い方
 教室に掲示
 フラッシュカード
 新出漢字の学習で
 カルタ遊び
 など工夫下さい

【指導の流れ】

- 1 部首カードのねらいと作り方を知らせる。
 「今日は、「部首カード」を作りましょう。いろいろな部首の名前や特徴が分かると、漢字が覚えやすくなりますね。作り方は次のようにします。」
- 2 分担して部首カードを作らせる。
 「それでは、作業を始めます。見やすくていねいに書くよう心がけましょう。」
 出来上がったものから順次黒板に貼らせていく。
- 3 感想を交流させる。
 「今日の感想を隣の人と発表し合いましたよ。」

【留意点】

- 1 部首カードの見本を提示する。B5サイズ程度の大きさの画用紙を使うと、作業や掲示がしやすい。表には、その部首のイメージを絵や色で表すなどして、見る人を引き付けるカードを作るよう意欲付けを図る。裏には、その部首が含まれた漢字を書く。できるだけたくさん書かせるのがポイント。
- 2 教師があらかじめ、学級の人数分以上の部首を選んでおき、その中から決めさせると効率的である。何人かの作品を紹介したり、作業が終わった児童はもう一枚作るよう声掛けしたりして、意欲を高める。
- 3 オリジナルのカードがたくさんできあがったことへの満足感をもたせたい。

2 漢字辞典の使い方の指導について (4年)

【板書事項】

漢字辞典を使ってみよう

音訓さくいん

部首さくいん

総画さくいん

「画(かく)」

村・七画

きへん(四画)

むら、ソソ

どの方法でも調べられる

・材料

・消化器官

・福

・願

【指導の流れ】

1 漢字辞典を使って調べる方法を知らせる。
「漢字が分からないとき、漢字辞典が役に立ちます。漢字辞典には、次の三つの調べ方があります。」

音か訓の読み方が分かっているとき

音訓さくいん

読み方が分からないとき

部首さくいん

読み方も部首も分からないとき

総画さくいん

2 画数の数え方に慣れさせる。

「漢字を組み立てているひと続きの点や線を「画」といいます。このひと続きで書く部分を「画」と数えます。漢字の画数を数えてみましょう。」

3 漢字辞典で探して意味を調べさせる。

「いくつかの漢字を漢字辞典で調べてみましょう。」

・材料
・消化器官

4 漢字辞典で熟語を調べる方法を知らせる。

「漢字辞典を使って、次の漢字を使った熟語と意味を調べましょう。」

・福
・願

【留意点】

1 それぞれの索引の特徴を説明する。

音訓索引：読み方が五十音順に並んでいる。

部首索引：部首が画数ごとに整理されている。

部首以外の部分の画数という手順で探す。

総画索引：総画数の少ない順に並んでいる。

総画索引：総画数の少ない順に並んでいる。

2 折れや曲がりも一画として数える漢字、一続きに見えても二画と数える漢字の画数の数え方について補足する。いくつかの漢字を指書きしながら、画数の数え方を確認する。

3 最初は全員でそれぞれの索引の使い方を確かめながら調べさせる。慣れてきたら、自分で方法を選んで調べさせる。

4 漢字辞典を使って調べた漢字をまとめたノートや、「オリジナル漢字辞典」などを紹介し、自主学習への意欲を高める。

2 漢字辞典の使い方の指導について (4年)

【板書事項】

漢字辞典に
なれるための五カ条

(例)

- 一 授業時間にどんどん使おう
- 二 学年に関係なく、調べたい字をどんどん引こう
- 三 印や付せんなど調べた足あとをどんどん残そう
- 四 自主学習でどんどん使おう
- 五 漢字でどんどん遊ぼう

「どんどん」がポイント
使えば使うほどなれていく

【具体例】

漢字辞典に慣れるためには、とにかく「どんどん」使うのが一番。そのための具体例を紹介する。

四の具体例

「自主学習に漢字辞典を活用する方法」

- ・新出漢字の読み・筆順・用例などを調べてノートに書く。
- ・テーマを決めて漢字集めをする。
- ・オリジナル漢字辞典を作る。
- ・漢字に関するコラムの内容などをまとめる。

- ・新聞やちらしから漢字を集めて調べる。
- ・家族と一緒に漢字の仲間集めをする。

五の具体例

「漢字辞典を使ったゲーム的活動」

- ・画数の多い漢字を集める。
- ・同じ音をもつ漢字を集める。
- ・同じ読み方で意味の違う漢字を集める。
- ・早引き競争をする。

【留意点】

漢字辞典は、国語だけでなく、他教科でも頻繁に使わせる。

気軽に引ける環境を学校でも家庭でもつくるのが辞書好きを育てる近道である。学年配当にこだわらず自由に調べる習慣を身に付けるようにする。

調べて終わりにするのではなく、調べた内容を使うことで、漢字辞典の良さを実感できる。

印や付せんなどで調べた結果の累積を確かめることは、自信と励みにつながる。自分の辞典に対する愛着もわく。

漢字を使ったいろいろな学習や遊びの方法を紹介し、意欲を高めたい。児童からも漢字辞典を使ったゲームのアイデアを募るとおもしろい。

2 漢字辞典の使い方の指導について (4年)

【板書事項】

漢字の成り立ちを知ろう

落・・・植物の葉が落ちる

くさかんむり

渡・・・川を渡る

さんずい

部首の成り立ちを知らば、形が覚えやすい。

漢字辞典で成り立ちを調べてみよう。

日・・・太陽の様子

心・・・心臓の形

など

【指導の流れ】

1 部首の成り立ちを知ることのよさを考えさせる。

「『落』の上の部分(くさかんむり)や『渡』の左の部分(さんずい)を極端に小さく書いてしまう間違いがあります。でも、部首の成り立ちを知らば、漢字の形が捉えやすくなります。『落』『渡』の部首はそれぞれ何でしょう。」

「『落』はくさかんむり」

「『渡』はさんずい」

「くさかんむりは植物と、さんずいは水とかかわりのある漢字が多いですね。『落』は草や木の葉が枯れて落ちる、『渡』は川などを渡るという意味です。だから、それぞれ、くさかんむりとさんずいが使われているのです。意味を考えると、漢字が覚えやすくなりますね。」

2 漢字辞典を使って、部首の成り立ちを調べさせる。

「部首や漢字の成り立ちは、漢字辞典で調べることができます。漢字辞典で成り立ちを調べ、ノートにまとめてみましょう。」
「ノートにまとめた内容を紹介し合いますよ。」

【留意点】

1 間違えやすい形の漢字を提示する。その漢字の部首は何かを問うことで、漢字をパーツに分けて考える視点をもたせる。象形文字など、物の形が部首に変化しているものは成り立ちが分かりやすい。いくつか紹介して関心を高める。

2 漢字辞典では、成り立ちについてのどのように記述されているか全体で確認する。その後、一人一人に関心のある部首を選んで成り立ちを調べさせる。

3 電子黒板や実物投影機などを使って、まとめ方を工夫している児童のノートを紹介してもよい。

3 熟語とその成り立ちの指導について (3年)

<p>【板書事項】</p> <p>よく似た意味の漢字を組み合わせてできる熟語を作ろう</p> <p>次の漢字を合わせて熟語を作りましょう</p> <p>(例)</p> <p>寒い+冷たい⇨寒冷</p> <p>通る+行く⇨通行</p> <p>森+林⇨森林</p>		
<p>【指導の流れ】</p> <p>1 よく似た意味を重ねた言葉を示す。</p> <p>2 似た意味をもつ漢字を重ねて、熟語にすることを知らせる。</p> <p>3 熟語づくりに取り組ませる。</p> <p>4 それぞれの漢字と熟語になった漢字の意味を調べさせる。 ・「寒い」「冷たい」「寒冷」それぞれを調べて意味を考えさせる。</p> <p>5 練習問題に取り組ませる。 練習問題例 倉+庫 労+働 道+路</p>		
<p>【留意点】</p> <p>1 一字一字の漢字の意味を知らせることとともに、熟語の作り方や熟語の意味を理解する力を養うことを視野に入れた指導を行うようにする。</p> <p>2 漢字の意味や成り立ちを考えさせながら、似た意味の漢字の熟語について楽しく取り組めるようにする。</p> <p>3 同様に反対の意味の漢字を組み合わせて熟語を作ることでもできる。</p> <p>参考文献 基礎字力をつけるワザコッヒケツ 柘屋雄三 フォーラムA</p>		

3 熟語とその成り立ちの指導について (4年)

<p>【板書事項】</p> <p>熟語と訓読みの関係を考えよう</p> <p>「生」を使った熟語を漢字辞典で調べよう。</p> <p>生物 生き物 生体 生きがい 音読み 音読み 訓読み 訓読み</p> <p>次の言葉を熟語にしてみよう</p> <p>月の光・・・ 国の旗・・・ 鉄の橋・・・ 教える部屋・・・</p> <p>次の言葉を訓読みの言葉にしよう</p> <p>兄弟・・・ 鏡台・・・ 音波・・・ 街灯・・・</p>		
<p>【指導の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 漢字の音読みと訓読みについて説明をする。「生物」(音読み)と「生き物」(訓読み) 2 「生」セイという読み方を使った熟語を漢字辞典を使って調べさせる。(制限時間を設け、たくさん調べさせるとよい。実態によってポイント制にする)と意欲をもたせられる) 3 同様に「生き」(イキ)という読み方を使った言葉を調べさせる。 4 音読みと訓読みの関係について考えさせる。音読みを日本語の意味に合うように訓読みで読み替えることができることを理解させる。 5 音読みは中国の発音を基にした読み方であることから「月の光」を熟語にさせる。 6 同じような意味を表す熟語作りをさせる。 <p>訓読みの言葉を熟語にする。 熟語を訓読みの言葉にする。</p>		
<p>【留意点】</p> <p>「住む所」「住所」などの「住」の熟語で調べさせてもよい。音読み(意味が分かりづらい)ことがある。しかし、熟語にすると、漢字のもつ意味を理解することで文章に深みを出すことができる)と訓読み(表意文字としての漢字の意味をあてはめた読み方で意味がすぐ分かるが、送り仮名が必要になることがある)があることを指導することで、漢字そのものに意味があることを理解させたい。</p> <p>楽しく学ばせる手だてとして、ポイントを与えたり、グループに分かれて次のような活動をさせるとよい。</p> <p>(活動例)</p> <p>訓読みの言葉を熟語にさせる。 熟語を訓読みの言葉にする。</p>		

3 熟語とその成り立ちの指導について (4年)

【板書事項】

熟語しりとりゲームをしよう

今日の漢字

飛

ばらばら漢字熟語づくり

健兵対隊松連航案

海議特害康虫続林

席殺戦熱座紙製空

熟語作文に挑戦しよう

【指導の流れ】

1 熟語しりとりゲーム

教師が漢字一文字を板書しそれを熟語にさせる。

熟語しりとりをする。黒板にグループごとどんどん書かせていく。

2 ばらばらに漢字を並べてその漢字を使ってできる熟語を探させる。

(実態によって熟語にならない漢字を入れてもよい)

バラバラ漢字熟語作り。

3 熟語をたくさん使った文章を考えさせる。

- ・ 松林に害虫がつく。
- ・ 対戦ゲームに熱中する。

【留意点】

1 新出漢字の指導後に、今日の漢字として出題するとよい。漢字辞典や国語辞典を手元に置き、調べさせながら熟語を考えさせる。その時熟語の意味を理解させながら取り組ませると、漢字に対しての関心が高められるだけでなく、語彙を増やすことができる。

熟語しりとりは、しりとりだけでなく頭とりをしても楽しい。

- ・ 荷物 集荷 全集 安全 不安

2 正方形の四角の中にたくさんの漢字を入れその中から熟語をつくる。

3 今日の授業で作った熟語を使った短文に取り組ませる。作った熟語全てを使わなくても、意味を考えながら文章を書くことでさらに理解が深められる。

4 文字の組立て方と関連付けた指導について (3年)

<p>【板書事項】</p> <p>漢字を小さな部分に分けて おぼえよう</p> <p>「軽」をばらしておぼえよう 軽・・・十二画</p> <p>「部首は車」 つくりは又を右に長くはらい 下に土」</p> <p>「宿」をばらしておぼえよう 宿・・・十一画</p> <p>「うかんむりの下に イを書いてとなり 百のできあがり」</p> <p>みんなも考えてみよう</p>		
<p>【指導の流れ】</p> <p>1 新出漢字を分解して唱えるように簡 単に書けることを知らせる。 『軽』という漢字を覚えましょう。部 首の車を書いて、横に片仮名の又の二 筆目を長く書きます。その下に土を書 いたらできあがり。」</p> <p>2 「わあ、簡単だね。やってみよう。」</p> <p>3 ゲーム的な要素を取り入れて、小さ な部分に分けさせる。 「次は宿という漢字です。うかんむりを 書いたら、その下にカタカナのイ。横 に百で宿のできあがり。歌のようにす ると楽しいね。」</p> <p>3 漢字を覚えるときに、分解して考え られるようになるまで、繰り返し行う。</p> <p>例 漢字の足し算 井+日+十=草 一+口+ソ+一+一+ノ+目+八 =頭</p>		
<p>【留意点】</p> <p>1 漢字を小さな部分に分けて考え、それ ぞれを正確に書くようにする手立てであ る。</p> <p>2 漢字は、へん・つくり・かまえ・によ う・たれ・あしなどで構成されている。 その部分を正確に書けるようにしたい。</p> <p>3 児童に部分を見分けさせる。小さく分 解して考え、たし算のように組み立てさ せる。その際に、唱えて覚えることより楽 しく覚えられることを実感させる。</p> <p>4 ほかの漢字を分解する時に、これまで 学習した漢字に似ているところと違って いるところに気付かせたい。差異が分か れば漢字の組立てに注意をするようにな る。</p> <p>5 家庭での練習の仕方を工夫させる。</p> <p>参考文献 基礎学力をつけるワザコツヒケツ 柘屋雄三 フォーラムA</p>		

4 文字の組立て方と関連付けた指導について (3・4年)

<p>【板書事項】</p> <p>漢字の組み合わせを考えてみよう</p> <p>「板 図 族 息 固 悲」</p> <p>「板 族」「息 悲」「図 固」</p> <p>左と右に分かれている。 上と下に分かれている。 かまえの中に入っている。</p> <p>次の漢字を組み合わせて 一つの漢字を作ってみよう。</p> <p>日 木 目 女 黄 一 土</p> <p>糸 口 生 王 十 竹 本</p> <p>冬 魚 耳 由 門</p> <p>相 横 星 笛 回 聞</p> <p>まとめ 部首と他の部分は、左と右、上と下、内と外などの関係の組立て方がある。</p>		
<p>【指導の流れ】</p> <p>1 一つの漢字が組み合わされてできていることを学習させる。</p> <p>「『板 図 族 息 固 悲』を漢字の部分の同じものに分けてみよう。どこが同じかな。」</p> <p>2 それぞれ、どのような観点から分けたのか、ノートに書かせ発表させる。</p> <p>3 漢字の組立てを考える問題を出す。 それぞれの単漢字を組み合わせて一つの漢字を書かせる。児童に発表させる。</p> <p>組み合わせた漢字がどう見えるか感想を話し合わせる。</p> <p>C「組み合わせると一つの漢字ができた。」</p> <p>C「へんとつくりが少しずつ細くなつて、一つの漢字にかんむりとあしは平たくなって漢字ができた。」</p> <p>4 それぞれの漢字が組み合わさつて一つの漢字になる時は、左と右、上と下、内と外などの関係の組立て方がある。</p>		
<p>【留意点】</p> <p>1 「星」という漢字であれば「日」「生」のそれぞれの部分が、組立て方の関係によって形が整えられることを理解させていく指導である。</p> <p>2 一つ一つの漢字を組み合わせても一つの漢字にならないことを気付かせていくことも大切である。これは中学年以降、増えてくる会意文字や形声文字を学習する際の考え方として有効である。</p> <p>3 漢字指導と書写の時間を関連付けて楽しく仕組みを理解させる。</p> <p>参考文献 「書くこと」の学びを支える国語科書写指導の展開 松本仁志 三省堂</p>		

5 練習を継続させて確実に習得させる指導について（4年）



【授業の様子】

【指導の流れ】

てのひら書き

- ・新出漢字が書けるようになったかどうかペアで確認する。
- ・二人一組で向かい合い、一人が出題者、もう一人は解答者となる。
- ・出題者は、新出漢字の中から口頭で問題を出し、手のひらを相手に向けてみる。
- ・解答者は、出題者の手のひらに出された漢字を指で書く。
- ・間違えたり書けなかつたりした場合、正解を相手の手のひらに書く。
- ・一問ごとに、出題者と解答者は入れ替わる。
- ・後ろを向いて空書き
- ・全員起立。
- ・教室の後ろを向き、空書きをする。
- ・習字のときのよう腕を使って大きく空書きをする。

【留意点】

てのひら書き

- ・スキンシップをしながら、楽しく書き取りができるようにするペアワーク。筆順、とめ、はね、はらいなど、細かな部分までチェックするよう声掛けする。
- ・教師と児童のペアはさらに楽しく身に付く。難しい漢字は、教師の背中に書かせる方法も大人気。
- ・後ろを向いて空書き
- ・筆順の正誤を教師がチェックしやすい方法である。また、学習活動に変化をつけることができる。
- ・列ごと、グループごと、男女別など変化をつけて繰り返す。
- ・「あれ？筆順の間違っていた子が三人いましたよ。もう一回やりましょう。」などと声掛けすると集中力が高まる。
- ・書けない児童には、ドリル等を見せて空書きさせる方法もある。

【板書事項】

どんな意味？

一 ここではきものをぬいでください

二 こんなにもつはいらぬ

漢字喜遊曲 吉野 弘

母は

舟の一族だろうか。

こころもち傾いているのは

どんな荷物を

積み過ぎてているせいか。

辛いの中の人知れぬ辛さ

そして時に

辛さを忘れても辛い。

何が満たされて辛いになり

何が足らなくて辛いのか

後略

【指導の流れ】

1 漢字を使うと意味が正しく伝わることに気付かせる。

「一」と「二」の各文にはそれぞれ二通りずつの意味があります。それぞれ、どんな意味ですか。」

C 「一」の文の意味は、脱ぐものが、「着物」と「履きもの」の二通りの意味があると思います。「二」の文の意味は、荷物が「入らない」と「要らない」の二通りの意味があると思います。

2 漢字仮名交じり文の読みやすさに気付かせる。
「伝えたいことを誤解されないようにするにはどうすればよいですか。」

C 漢字を使うこと、または句読点を打つことで意味がはっきりします。
「その通りです。今日は漢字を使うと誤解されずに正しく伝わるということや漢字を正しく書かないと意味がずいぶん違って誤解されてしまうことについて勉強します。」

3 正しい漢字を書くことの大切さに築かせる。
「『漢字喜遊曲』という詩を音読してみましよう。『母』と『舟』、『辛い』と『辛さ』など、字形は似ていますが意味はずいぶん違いますね。相手に正しく伝えるためには、努めて正しい漢字を書く必要があります。」

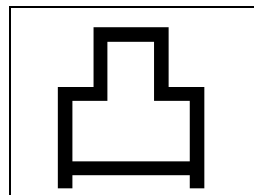
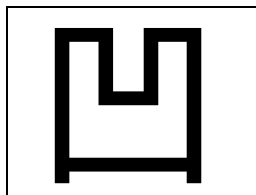
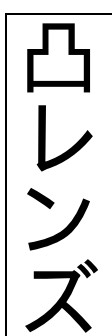
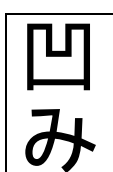
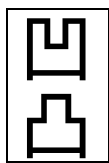
【留意点】

1 漢字を正しく使うことによって意味が正しく伝わりやすくなることに気付かせる。

2 漢字で書いても平仮名で書いてもそれほど違いはないと思っている児童もいる。平仮名ばかりの文章の読みにくさや、そこから生じる誤解について確認する。そして、漢字仮名交じり文の読みやすさに気付かせ、漢字を適切に使うことの大切さを理解させる。

3 少しぐらい字形が整っていないかまわないと考えている児童がいるものである。確かに前後の文脈からその漢字を推測できることは少なくない。しかし、相手に正確に伝えるためには、努めて正しい点画で漢字を書く必要があることを上記の詩を通して、気付かせる。

【板書事項】



【指導の流れ】

- 1 カードに書いた「凹凸」を提示。
 「何と読むでしょう。」
 C「がたがた」「だんだん」・・・
 「山と谷を表す記号」・・・
- 「おしい。『凸』に『お』をつけて『お凸』とすると分かるかな。みんなの体にもある読み方だよ。」
 C「あつ、分かった。『おでこ』。だから、これは『でこ』です。」
- 「そのとおり。二つ合わせて『でこぼこ』と読みます。」
 C「へえ、漢字なんだ。」
- 「そうです。他にも読み方があります。読めるかな。」
- 2 「凸レンズ」「凹み」「凹凸」のカードを提示する。
 C「凸レンズ」
 C「くぼみ(へこみ)」
 C「おうとつ」
- 「正解です。漢字辞典で確認しましょう。」

【留意点】

- クイズのような感覚で自由に読ませる。
- 「でこぼこ」が出ない場合はヒントとして「お凸」を出す。
 楽しそうな雰囲気で行う。
 記号ではなく、正式な漢字であること
 を確認する。
- 今回の学習は、凸凹の「読み」の学習であるが、凸凹の筆順の学習を行うことにより、一学年ですでに学習している次の漢字の原則の復習を行うこともできる。
- A 筆順のきまり
- ・上の部分から下の部分へと書いていく。
 - ・左の部分から右の部分へと書いていく。
- B 書く線の方向
- ・上から下へ書く。
 - ・左から右へ書く。

【板書事項】

難しい漢字を覚えてみよう！

薔薇

薔薇

背景

険しい

【指導の流れ】

- 1 覚えにくい漢字を提示する。
「だれでも覚えにくい漢字の代表である『薔薇』をドリル式のように何度も書かなくても、覚えられる方法を紹介し
ます。」
「字をよく見てください。薔薇は植物なので二つとも草かんむりです。」
「『薔』は込み入っています。真ん中は『土に人人』です。」
「『薇』は、微生物の微に似ていますが、真ん中に『一』があるところが違います。」
「薔の『土に人人』部分と薇の『一』に赤丸を付けます。」
「赤丸を付けたところだけしっかり覚え
ます。」
「手で隠して本当に覚えているか書いて
みてください。」
C 「書けました。びっくりです。」
「『薔薇』を書ける人は、大人でも百人
に一人いるかいないかの大変難しい漢
字です。漢字検定一級の問題です。そ
れをたった一、二分で覚えてしまいま
したね。」
- 2 ほかの漢字にも挑戦させる。

【留意点】

「つがわ式漢字記憶法」の紹介。丸暗記ではなく、まず漢字の構造を理解する。次に、思い出しにくい部分に赤丸をつけ、そこだけを記憶にとどめようとする方法である。

記憶するためには、その思い出すきっかけを正確に覚えることがコツ。「最も思い出しにくいものだけを記憶すれば、残りの記憶も一緒に出てくる」という原理を使う。

大人でも非常に難しい漢字を書けるようにすることで、上学年に配当されている漢字や配当表以外の漢字に対しても読み書きできる自信をもたせる。「背景」「険しい」についても、児童自身が思い出しにくいところ一箇所赤丸を付けさせ、覚えさせる。

参考文献「世界最速『超』記憶法」

津川博義 講談社 + 新書

6 その他 (漢字に親しんだり理解を深めたりする)(4年)

【板書事項】

「漢字オリジナル辞典」を作ろう！

(例)

なつかしい漢字(一年)

立水 目年百

難しい漢字(二年)

園曜 書船考

忘れそうな漢字(五年)

養飛 堂要働

早く習いたい漢字(六年)

創卵 晩誕優

【指導の流れ】

「『漢字オリジナル辞典』を作ります。テーマは自分で決めます。その漢字を選んだ理由も工夫して発表します。」

「この学習を通して、みんなに漢字に親しんだり理解を深めたりしてほしいのです。また、プレゼンテーションすることで発表する力もつきます。」

C 「はい。」

「例えばこんなテーマはどうですか。『人気のある漢字』『かっこいい漢字』『友だちの漢字』など。テーマを自分で考えて取り組みましょう。」「みんなが『漢字オリジナル辞典』を作り、ほかのクラスや他学年にプレゼントしましょう。」

【留意点】

楽しい雰囲気で行えるようにする。

漢字に親しんだり理解を深めたりするために指導である。自分が考えて選んだ漢字を級友の前で発表することにより「話すこと・聞くこと」の指導事項ア・イ・ウ・エと関連させた指導とする。

まずは、グループ内でプレゼンテーションを行わせ、代表者が学級全体でプレゼンテーションを行うようにする。

「漢字オリジナル辞典」として一冊にまとめることにより、「書くこと」の指導事項ア・イ・ウ・エ・オと関連させた指導とする。

聞き手や読み手としてほかのクラスや他学年を想定し、相手意識を明確にする。

助数詞クイズで楽しもう

【板書事項】

電車	ア	枚
植木	イ	棹
靴下	ウ	両
テニスコート	エ	丁
豆腐	オ	面
板	カ	足
タンス	キ	株

例 イカの数え方は？

答え(生きている時は「匹」、ひとたび商品になって市場に出ると「杯」)

いわれ(形状がふくらんだ形の器に似ているので、その器を表す杯で数える。イカの胴体は、イカ飯やイカ徳利にできるような形。『杯』と書かれた優勝カップやトロフィーを思い浮かべてみましょう。)

調べた本

「数え方の辞典」

飯田朝子・著(小学館)

【指導の流れ】

1 助数詞のクイズに答えさせる。

「ものの数え方には、きまりがあります。牛乳びんなら一本二本、猫なら一匹二匹ですね。「本」や「匹」を「助数詞」といいます。助数詞は、日本語の文化であり、言葉の表現の豊かさでもあります。」

「黒板のくままでのものと合う、アからキまでの助数詞を線で結んでみましょう。」

「正解は ウ、キ、カ、オ、エ、ア、イです。」

2 助数詞クイズを作らせる。

「みなさん、「助数詞クイズ」を作ってみましょう。クイズは短冊に書いて掲示します。そのように数える理由やいわれも書きます。取材した本や人も明らかにします。」

「意外性が勝負です。例えば、八百屋さんや魚屋さんに出かけて行って、変わったものの数え方を聞いてくると面白いものがあるかもしれませぬね。」

【留意点】

1 助数詞は面倒なものとして敬遠され、つい「一つ」「一個」ですませてしまふ児童もいる。日本人が、数える対象をどのようにとらえているかを映し出している言葉だということに気付かせたい。

動物の数え方(匹・頭など)にふれるのもよい。つまり、人間の大きさを基準にして数え分けていることを知らせる。人間より大きい動物は「頭」、人間より小さい動物は「匹」、人間と同じくらいの大きさの動物は「頭」でも「匹」でも数える。

2 生きている魚は「匹」で数えるが、釣りの獲物や鮮魚店の商品になると「尾」になる。また、成虫は「匹」で数えるが、さなぎは動かないので「個」で数えるなど、形状や性質に応じて変わることを知らせることも、興味をもたせるきっかけとなる。